トウカイコガタスジシマドジョウ　*Cobitis minamorii tokaiensis* Nakajima

【選定理由】

愛知県内における生息地は著しく減少しており、個々の生息地は分断されて局所的である。いずれの個体群も、開発による生息地の消失・改変のリスクにさらされており、絶滅の危険性が極めて高い。

【形　態】

雄の体長 5cm、雌の体長 7cm。体色は白色～淡黄色で、体側の暗色斑紋は点列型。雄の体側斑紋は産卵期に縦条となる。胸鰭から腹鰭までの筋節数が一般に 12 で、雄の胸鰭の骨質板が円形だが外側に向かってやや細い形状をすることで、オオガタスジシマドジョウ（本県においては移入）やニシシマドジョウと区別できる。

【分布の概要】

【県内の分布】
犬山市、春日井市、刈谷市、矢作川、豊川。
【国内の分布】
伊勢湾周辺地域のみ。
【世界の分布】
日本固有種。

【生息地の環境／生態的特性】

ため池やそれにつながる水路、水田地帯の河川に生息する。水路や河川の場合は、非灌漑期に水が涸れることのない流れの緩やかな砂泥底を好むが、汚濁の進んだ環境では見られない。繁殖期は 5～6 月頃と推定される。梅雨時の降雨や水田灌漑のために河川や水路の水位が上昇して素掘りの水田水路に水が入ると、そこに遡上して産卵する。季節的な移動距離は短く、比較的狭い範囲で生活していると考えられる。

【現在の生息状況／減少の要因】

本種は丘陵地から平野部の水田地帯に広く生息していたと考えられるが、そうした環境の開発が進み、水田水路も三面コンクリート護岸化が施されることによって、現在の本種の生息地は一部地域に限られている。また、岐阜県の生息地と比べると、本県の生息地は周辺の宅地開発が進み、産卵場所となる小水路の環境改変や水質の悪化が減少要因になっていると推測できる。

【保全上の留意点】

水田水路の三面コンクリート護岸化による生息地全体の改変は避ける必要がある。生活排水等の流入による水質と底質の悪化、冬季の越冬場所の水涸れを避けるとともに、繁殖期に素掘りの小水路へ遡上できる環境を維持する必要がある。飼育下での系統保存技術も確立されておらず、現在の生息地の保全が重要である。

【特記事項】

従来スジシマドジョウ小型種東海型とされてきたが、中島ほか（2012）によって標準和名トウカイコガタスジシマドジョウが提唱され、Nakajima（2012）によって *Cobitis minamorii tokaiensis* として記載された。

【引用文献】

Nakajima, J., 2012. Taxonomic study of the *Cobitis striata* complex (Cypriniformes, Cobitidae) in Japan. Zootaxa, 3586: 103-130.
中島 淳・洲澤 譲・清水孝昭・斉藤憲治, 2012. 日本産シマドジョウ属魚類の標準和名の提唱. 魚類学雑誌, 59: 86-95.

【関連文献】

斉藤憲治, 1993. スジシマドジョウ小型種と大型種の急減. 魚類学雑誌, 40: 394-397.
斉藤憲治, 2005. スジシマドジョウ種群－高密度なのに, 実は希少魚－. 片野 修・森 誠一（監修・編）, 希少淡水魚の現在と未来, pp.186-192. 信山社, 東京.

（向井貴彦）